

CONTENTS

巻頭言 新里 眞男一1

中英特集①英語の授業は英語で

つまらない授業は「英語でも」つまらない 卯城 祐司 — 2

「英語で授業」をしてみよう!

胡子美由紀一4

「英語で授業」のコツ

吉田 喜美子 一6

中英特集② 地域内連携

英語スピーチコンテスト、英語キャンプ等の実施

稲見武仁 -8

デジタル教科書を効果的に活用した「教科書を超えていく学び」の追求

木下 雅仁 — 10

Teacher's Forum

生徒の笑顔と輝く瞳!~効果的でコミュニカティブな「発表」の活動~

久保田 純一 — 12

系統的に語彙を指導する工夫

上尾 栄美子 — 13

連載① 小中連携 この場面, どう対応する?

小中の違いと、学びの視点

正頭 英和 — 14

連載② 指導書・副教材活用法 「コミュニケーション・ワークシート」 編

「コミュニケーション・ワークシート」で生徒どうしをつなぐ

金澤 朋宏 — 15

英語教育時評 高梨 芳郎 — 16

開隆堂

コミュニケーション活動に最適!! 表はイラスト,裏は動詞(句)

全国の多くの先生方の声にお応えして、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1からついに単体で発売!!

アグショッカードotyp

- ★英語教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1に ついている「アクションカード」がついに単品で発 売されました!
- ★新事項の置換練習,インフォメーション・ギャップ 活動,自己表現のヒントなど,多彩に使えます。
- ★オモテ面に動作を表す絵, ウラ面に動詞と名詞を組 合わせた文字を示したカードです。

【アクションカード・セット】 北原 延晃,開隆堂編集部 著 定価 本体2,700円十税 【セットの内容】

- 1. 説明書『アクションカードの使い方』
- 2. 指導用アクションカード36枚1セット
- 3. アクションカード4枚1組×40セット









Kantogen

「話す」の指導と評価のために

新里 眞男 (関西外国語大学教授)

の英語教育における話題の中心は「話す」であろう。大学入試でも「話す」能力を測定するために、英検などの外部試験を採用することになった。そもそも新学習指導要領で「話すこと」が「やり取り」と「発表」とに分けられたことも、「話す」が重要視されていることを示している。

「話す」をきちんと指導している教師はどれだけいるのだろうか。大学入試に「話す」「書く」も含めた4技能を導入しようとする動機の1つには、入試に「話す」を入れれば、中学・高校でもっと「話す」に重点が置かれるようになるから、というのがある。それは現在「話す」指導が不十分であると多くの人々に認識されていることにほかならない。実際、私の目から見ても音読や暗唱などの「練習活動」はあるが、実際に「話す」活動は少ない。

ある県では、「話す」を含んだ入試に対応するために、英語教師を特別訓練するような研修会を発足させるとのこと。また、テレビでは塾・予備校の「考えながら話す力をつけます」というコマーシャルが流れ始めている。いずれも、現在の中学・高校の英語教育では「話す」が不十分だと思われているからだろう。

31 周年を迎えた JET プログラムで、約6万6千人の外国人が来日した。その予算で日本人英語教師を1年間の海外研修に送っていたら今頃はどうなっていただろうか。仮に過去30年間で約2~3万人の日本人英語教師が1年間の海外研修を受けていたら、単純計算で各県 $400\sim600$ 名もの英語教師がそれなりに話せるようになっていただろう。それは、今の英語教育界の莫大な財産となっていたはずだ。これを教訓として同じ轍を踏まないためには、外部に任せるのではなく、大学入試センターで「話す」を含めた試験を作成・実施すべきではないだろうか。

つまらない授業は 「英語でも」 つまらない



卯城 祐司 (筑波大学教授)

1. 英語の授業は英語で

成29年度の「英語教育実施状況調査」によれば、中学校では英語の授業で教師が「発話をおおむね英語で行っている(75%以上)」と「発話の半分以上を英語で行っている(50~75%)」を合わせた割合は、第1学年では70.1%(前年度より5.8ポイント上昇)、第2学年では68.4%(同5.2ポイント)、第3学年67.5%(同5.6ポイント)である。ちなみに高等学校では、コミュニケーション英語Iで60.4%(同3.2ポイント)、Ⅱで54.8%(同2.2ポイント)、Ⅲで42.0%(同1.7ポイント)となっている。

この数字を見る限りでは、「英語の授業は英語で」という流れが着実に進んでいるように見える。しかし、「なぜ、英語で授業を進めるのか」、「英語で進めることにより、授業をどのように変えていくのか」については、依然として、あまり議論がなされていないように感じる。

日本語でもつまらない授業は、「英語で」進めても同じである。使用言語が変わったからと言って、授業が劇的に進化するわけではない。先生の指示や説明は英語でも、授業の中で生徒が全く英語を用いていないような授業がその典型である。

2. なぜ「英語で」授業

英語の授業を「英語で」進めることに不安を抱く 先生方からは、次のような声を聞く。「英語で授業 をすると、これまでやっていたことの全てはできな い」、「指導書の内容を全部教えようとすると、英語 で進める授業には限界がある」。

しかし、「英語で進める授業」は、「日本語で英語 を解説してきた授業」とは全く異なるはずである。 従来の授業を単に英語に直すという発想では「英語 で進める授業」は、ウェブで機械的に生産される壊れた翻訳に近い授業となる。

「英語で進める授業」の目的はいくつもあげられるが. ここでは次の3点を取り上げたい。

- ①授業では、できるだけ英語を「**使う**」経験を させる。
- ②新しい言語項目は「場面で導入」する。
- ③インフォメーション・トランスファー型の理解を目指す。

3. 英語を「使う」授業

これまで英語の授業では「解説」が重要な位置を 占め、「プールの中に入らない水泳の授業」とか、「紙 鍵盤で学ぶピアノ」などと例えられてきた。しかし、 知識を得ることと英語を実際に使えることに乖離が あるのは誰もが認めるところである。

英語にたくさん触れるための、インプットの重要性についてはこれまでも多く語られてきたが、もちろんインプットだけでは不十分で、生徒が実際に英語を使ってみるアウトプットも重要な役割を果たしている。以下に、Swain(1985 他)のアウトプット仮説も参考に、その役割を 4 点、まとめてみる。

- ①自分が伝えたいことと、実際に伝えられない ことのギャップに気づく。
- ②学習過程で立てた仮説を検証、修正する。
- ③より細かな文法規則に意識が向けられる。
- ④学んだ知識が自動化される。

①は、実際に話したり、書いたりすることで、「自 分が伝えたいこと」と、「伝えられること」のギャッ プに気づくことができ、このギャップを埋めるため に知識を得ようとしたり、インプットに注意が促さ れることを指す。②は、相手からフィードバックを



得ることで、文法や単語の理解を修正することである。③では、「意味処理」に重点が置かれるインプットに対して、アウトプットでは、「ここでの時制は」と細かい規則や文法など「統語処理」に意識が向けられ、理解が促進される効果があげられる。最後の④は、何度も口にしたり書いたりすることで、意識的に考える時間が徐々に短くなることである。もちろん、これらは、「気づき」を喚起し、言い直して応答するリキャストなど、適切なフィードバックを与えて初めて、誤りの定着を防ぐなどの効果が得られる。

4. 場面で導入. 活動で理解

文法などの言語項目は、その表現を用いる典型的なコミュニケーション場面で導入したい。そのことによって、どんな「場面」で使われる表現なのか、そして、どんな「話し手」と「聞き手」の関係で使われるのか、また、「謝罪」「説得」など、どんなことを伝えるために使われるのかなどが伴った言語項目の理解となる。

新出文法項目を学ぶと、理解できたかどうかをすぐに機械的な演習問題で確かめることも多い。しかし、be going to を学べば、それを空所に入れることくらい、考えなくともできる。むしろ、生徒が考えなくなる。「どんよりとして、今にも雨が降りそうな空を見つめている場合」と、「ただ単に天気予報で明日の予報を知った場合」など、場面に応じてbe going to やwill などの表現が口をついて出るように、どんな状況で何を伝えるのかという「思い」を第一に、英語が使える生徒を育てたい。

また、文法形式の操作にとどまらず、生きた場面の中での活動で、生徒にたくさん間違いを経験させ、 生徒一人ひとりや全体の誤りの傾向を把握して指導 し、実際の「言語使用の経験」に近いコミュニケー ション活動で理解を深めていきたい。

5. インフォメーション・トランスファー

アクティブ・ラーニングでは、一方的な知識伝達型の学習から、能動的な学習への転換を目指している。英語の授業では、書いたり、口頭でやり取りしたり、発表したりするなどの活動が必要となる。リテリング(再話)などの活動では、読んだり聞いたりした英文を頭の中でいったん整理し、自分の言葉で表現することにより、理解がさらに深められる。リーディングやリスニングにおける理解とは、1つでも多く情報を得ることよりも、得た情報を頭の中で整理整頓することにある。

英文の情報をそのままではなく、少し形を変えて みることをインフォメーション・トランスファーと 呼ぶ。話すだけでなく、書いたり、図や表、絵で表 現したりするなど、英語を使ってさまざまな形で表 現することにより、理解が深まるのである。

6. おしゃべり先生の功罪

「英語で授業」で必ず批判されるのが「おしゃべり教師」である。確かに、英語を使うのは生徒であり、ネタバレのオーラル・イントロダクションにも課題はある。一方、教師が教科書の英語をさまざまなバリエーションで表現し、内容を英語で膨らませなければ、生徒は、教科書の英文以上の表現ができない。生徒が英語を用いて、「自分の言葉」で表現できない一因がここにある。あくまで英語を使うのは生徒であることを踏まえながらも、「英語で進める」授業では、中学校でも高校でも、教師は「英語を使うモデル」でありたい。

●参考文献

Swain, M. (1985). Communicative competence: Some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development. In S. Gass & C. Madden (Eds.), *Input in second language acquisition* (pp. 235-253). Rowley, MA: Newbury House.

「英語で授業」をしてみよう!



(広島県広島市立古田中学校教諭)

▶ 020年の東京オリンピックに向けたグローバ ル化に対応した英語教育政策の中で、「英語 の授業は英語で行うこと」が打ち出された。しかし、 「英語で行う」授業への戸惑いや難しさを感じてい る先生は少なくないだろう。「英語で行う」授業に は何が必要なのか、公立中学校でもできる「英語で 行う」授業実践をご紹介する。授業改善のお役に立 てば幸いである。

1. 「英語で授業」のメリット

授業を英語で行うと何がよいのだろうか。以下に メリットを2点お示しする。

① 生徒を英語モードにすることができる

中学校では毎時間生徒はいろいろな教科を学習す る。教師が英語を使うことで、これから英語の授業 だというモードの切り替えになる。

② 生徒が英語を使う機会を増やすことができる

英語でのやり取りが増えるので、生徒が授業の中 で「英語に触れる機会」が保障され、実際のコミュ ニケーションの手段として英語を学ばせることがで きる。「英語で授業」の肝は、生徒たちがメッセー ジの発信や受信を英語で行うことにある。

2. 「英語で授業」を行うためのエッセンス

① 英語が使いやすい雰囲気をつくる

「英語で授業」を実現するには、生徒が安心して 自分を出すことができる環境づくりが必要になる。 英語は日本人の私たちにとっては EFL である。「言 いたいけど言えない」経験をたくさんさせ、未知の 語彙や表現を実際に使いながら身につけさせたい。 言葉は間違えながら覚えていくものだ。言語は、間 違え→修正する過程をくり返すことで習得されてい く。そのためにはわからないことを尋ね、ミスに寛 容な温かい人間関係の構築が不可欠である。

② インタラクションの中で気づきを促す

生徒が英語を使用中に間違えたら、そのままにせ ず、教師からのリキャストや仲間からのヘルプで気 づかせ、正しい表現を身につけさせることも大切だ。 教師からのフィードバックは全ての間違いに対し行 う必要はない。やり取りに支障がないように、適切 な時と場面で行う。私がよく行うのは以下の6つの 方法である。

- 1. 生徒が日本語で言ったときに英語でくり返す
- 2. 途中で詰まったときに英語で言いかえる
- 3. 一語で終わったときに英文にしてくり返す
- 4. 最初の言葉が出ないときに初めの語を導く
- 5. 言い間違えたときに自己修正を引き出す
- 6. 言った表現を言いかえる

加えて、ジェスチャーや ICT を活用した視覚教 材は、生徒の理解の大きな補助となる。また、英語 で授業を進めるのには英英辞典は必須だ。6のよう にパラフレーズするときに大いに役立つ。特に生 徒にわかりやすい表現に落とし込む際に、Collins COBUILD Student's Dictionary はお勧めだ。生徒の 理解度を確認しながら進めたい。

間違えるのは、生徒が成長過程にあるからだ。間 違えたときは、教師にとっても生徒にとっても理解 度を確認する好機である。生徒の「あ、そうか!」 という反応をできるだけたくさん引き出せるような 効果的なフィードバックを工夫する必要がある。ま た、上手く英語にできなかったり間違えたりしたこ とをくり返さないために、弱点を克服する活動を布 石として仕かけていかなくてはならない。

③ 授業デザインの工夫をする

帯活動によってルーティン化し、英語を使う自信 をつけさせる。帯活動は毎時間くり返し行うものだ。 生徒は活動のルールを既に理解しているので、指示 が通りやすく活動内容に集中できる。生徒が慣れて



きたら、変化をつけるために、少し指示を変えた り、活動の難易度を調整したりして集中力を持続さ せる。私は授業の前半に帯活動を位置づけ、自信を もって発話するためのトレーニングと即興型スピー キングを軸にした統合型の活動を行う。この帯活動 がベースになり、言語活動の際の発話の瞬発力、即 興力、そして表現力が鍛えられ、英語が飛び交う授 業になる。

多くの生徒にとっては英語に触れること自体が異 文化体験だ。間違えたら恥ずかしいと思う生徒もい る。帯活動でアクティブに英語を使う雰囲気に生徒 を巻き込み, 発話の自信をもたせれば, 「心理バリア」 と「言語バリア」も取り除くことができる。

④ Active Classroom English を増やす

授業では、「挨拶」「指示」「励まし」など教師の 発話から生徒の応答を促し、やり取りする場面をい くらでも作り出すことができる。次のようなやり取 りはどうだろう。

◆教師の投げかけへの応答

T: Are you ready?

S: Sure. / Ready!

T: Have you finished?

S: Yes. / No, not yet.

◆プリントを配付するとき

T: Here you are.

S: Thank you.

グループ活動時も生徒が使える表現が満載だ。

◆グループで活動を始めるとき

"Let's start. I'll read first."

つぶやきたいとき

"Oops!" "You got me." "Oh, no!"

こうした表現は、定型のものが多く、授業だけで なく日常表現としても有効だ。まず教師が使い、説 明をしなくても生徒が理解し、応答できるだけでな く自身で使えるレベルまで引き上げたい。

私は教科書にある表現のページを活用し、場面や 機能別にまとめた表現集を作り、計画的に生徒の使 用表現を増やすようにしている。使える表現が増え てくると, 生徒はもっている語彙や表現を駆使して 話し始めるので、即興のやり取りにも対応できるよ うになる。

⑤ 学習形態を工夫する

言うまでもなく英語は言語であり、コミュニケー ションの手段である。相手とのやり取りの中で英語 を使ってこそ,生徒たちは意欲的に課題に取り組み, 互いの学びを最大限に高めることができる。そこで、 私は生徒どうしの関わりを重視したインタラクショ ン型授業にすることで、生徒の発話量を増やしてい る。

ペア活動やグループ活動はインタラクションを 図りやすく、主体性を育みやすい学習形態である。 一人では困難なことも、友だちと乗り越えていく (ZPD) という体験の積み重ねが生徒の大きな自信 となる。こうした協同学習による言語活動が,英語 力を伸ばすと同時に自己理解・他者理解・共感性・ 対人交渉力といった社会性の伸長にも寄与する。生 徒は学び方が変わることで自律的な学習者に育って いく。

3. Leave no one behind. ~一人もとりこぼさない~

生徒が生き生きと英語を使っている。それが英語 授業の本当の姿だ。そういう授業では、生徒の心も 身体も思考もアクティブになる。言語は使いながら 学び、学びながら使うものだ。「英語で授業」はそ んな授業実現のためにある。先生方の英語が言葉と して生徒たちの心に届き、授業を通して言葉の大切 さを汲み取れる生徒たちが育つことを願っている。

「英語で授業」のコツ



(佐賀県吉野ヶ里町立三田川中学校教諭)

1. はじめに

学校,中学校では次期学習指導要領の全面 実施に向け、移行期間に入った。今回の改 訂における変更点の1つに「中学校の英語の授業は、 英語で行うことを基本とする」ことがある。このこ とにより私たちは、授業の中で、生徒たちが英語に 触れる機会を増やしたり、考えや気持ちなどを英語 で伝え合ったりする学習活動に取り組ませたりする などの、授業改善を行わなければならない。

最も大きな心配は、「授業を英語で行って、生徒 たちが理解できるのか」ということではないだろう か。ここでは、筆者の勤務校における実践をもとに、 その答えを探りたい。

2. 「英語で授業」の基礎

「英語で授業」の基礎をなすもの。 それは、 小学 校で育てていただいた素地であると言っても過言で はない。本校に入学する生徒の多くが学ぶ三田川小 学校では、平成21~23年度に文部科学省研究開発 学校の指定を受け、「英語科」としての研究に取り 組んでこられた。中学校には、外国語活動(今後は 外国語科の指導を含む)を経験した生徒たちが入学 している。生徒たちは、自然な流れの中で、中1の 第1時から「英語で授業」を当たり前として受け とめている様子が見られる。学びに向かう態度は大 変積極的で、「言われたことが何となくわかる感覚」 をもって授業を受けている。

入学したての生徒たちが、英語でできることは 意外に多い。挨拶, 自己紹介, "Do / Are / Can you \sim ?", "What $\bigcirc\bigcirc$ do you \sim ?", "When is vour birthday?" などの疑問文を使った対話活動 など、実にさまざまである。Classroom English も その延長線上にあり、ごく自然に理解し、反応する

ことができる。中学校では、生徒たちは何ができる のかを把握しながら授業をスタートすると、スムー ズに「英語で授業」に向かうことができると言える。

3. 明確に、シンプルに

「英語で授業」では、生徒たちが英語を使用 する場面を数多く設定する必要がある。佐賀 県では、その指導を「Model 提示→表現活動 → Feedback → Sharing」という一連の流れの中 で行い、生徒たちが無理なく確実に英語を使用する ことができるようになることを目指している。つま り、見たり聞いたりしてわかったことや、その表現 方法を活用し、すぐに自分の言葉に置き換えて使う ことに取り組ませるのである。その際に必要なのは. 明確でシンプルな表現モデルである。

また、Classroom English は「英語で授業」を 成功させるために不可欠である。その日の授業の目 標や流れを、教師と生徒が共有していることに加え て、明確でシンプルな英語の使用を心がければ、意 思疎通がしやすくなり、生徒たちはスムーズに動く ことができるようになる。

生徒から教師への質問の際にも、英語を積極的に 使用することを促したい。「書く活動」においては、 "How do you say ~ in English?", "How do you spell ~?"などは、使用頻度が比較的高い表現で ある。これらの質問をラミネートし、黒板の隅に貼っ ておくと、生徒たちはそれを参照しながら教師に質 問することができる。

4.「教科書本文」で考えや気持ちを伝え合う

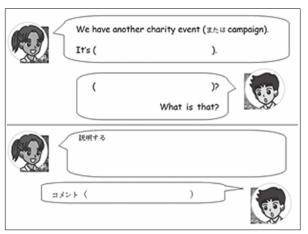
本文は、音読・読解するだけでなく、書かれてい るトピックについて考えたことや感じたことを、友 だちと伝え合う活動のために役立てたい。

【授業事例】

2年生 Program 3 What Can We Do for Others? **単元ゴール活動**「英語でチャリティーを語ろう会」 形式:ローテーション・プレゼンテーション及びやり取り

手順

①4人組の班ごとに、教科書以外のチャリティー イベントについてのプレゼンテーション(以下 プレゼン)を作成する。プレゼンは、Part 2の本 文をベースとした、ペアによる対話形式とする。 今回の実践では、チャリティーに関する情報に 関しては、班ごとに異なるものを教師が与えた。



プレゼン用ワークシート抜粋

	me to various homes for elderly, children and handicapped eds to the party go directly to local charities in Sass
O name	Saga Charity Christmas Party
	Raise money for homes for elderly, children and handicapped people.
Ohow to apply	Volunteer staffs: Contact at sagaccp.com. Attend: buy a ticket for the party.
⊘ fee	Tickets are: Adults = 2500yen at the door, or 2000 yen for advanced ticket Children = 500yen for 6-12 years old, or 100yen for under 5 years old

班ごとに渡したチャリティー情報より

- ②グループ内を,「プレゼンをするペア」と「プレ ゼンを聞くペア」に分ける。
- ③「プレゼンをするペア」は、隣の班の「プレゼン を聞くペア」に対して、プレゼンを行う。聞き手

側は観点別点数制でプレゼンの評価を行う。(1分)

- ④終了後, Q&A タイムを設ける。 同タイム内に行っ た質問の数は聞き手の班の点数となる。(1分半)
- ⑤上記の活動を、クラス内の班の数に応じて、ロー テーションしながら、くり返し行う。
- ⑥活動終了後、教師は英語でコメントを述べる。

授業の様子

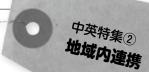
今回の活動では、次のような様子が見られた。

- ・渡した資料から必要な情報を抽出し、プレゼン原 稿を素早く作成した。
- ・聞き手との距離が近いプレゼンの利点を生かし. 表情豊かに対話を行ったり、与えられたセリフの 行間に fillers を積極的に使用したり、資料に添付 した写真を指差したりして、何とか楽しく伝えよ うと、聞き手の興味を引く工夫をしていた。
- ・Q&A タイムに点数制を導入したことで、活発な 質疑応答が見られた。
- ・task repetition の度に、プレゼンも Q&A も上達 していく様子が見られ、「英語が使えるかもしれ ない」という感覚を覚えた生徒が出てきた。

5. 「英語で授業」のコツ

「英語で授業」を成功させる最後のコツは、英語 科の担当者全員で生徒に英語を使わせる授業を展開 することである。教員が変わっても、同じスタンス で指導に当たれば、生徒たちは「英語で授業」を当 たり前のこととしてとらえてくれる。

また、生徒が英語を使って言語活動に取り組んだ ら、あらゆる機会をとらえて、平易な英語で具体的 に直接ほめることも大変重要である。生徒たちは, そのフィードバックを聞きたがり、理解したがる。 その意欲は、次の学習への動機につながる。 つまり、 「英語で授業」は、いわゆる「正のスパイラル」へ のカギになりうると言える。



Case 1

英語スピーチ コンテスト. 英語キャンプ等の 実施



稲見 武仁

(愛媛県新居浜市立泉川中学校校長)

1. 英語スピーチコンテストの実施

新居浜市では、平成2年度から「中学生英語スピー チコンテスト | が毎年開催されており、今年度は9 月に29回目のコンテストを実施予定である。小さ な大会だが、過去28年間で中学生の英語スピーチ のレベルが格段に向上した。30年ほど前には、「高 円宮杯全日本中学校英語弁論大会愛媛県予選」に、 本市から毎年2.3名しか出場していなかったのだ が、この四半世紀の間に参加者数が激増し、毎年県 下の参加者20数名のなかで、約半数を本市の中学 生が占めるようになった。練習の成果を発揮し、県 予選を突破し、本市からこれまで25名以上の中学 生が全国大会に出場していることは、何よりも大き な成果である。さらに平成2年度には、本市代表の 生徒が全国優勝を成し遂げた。本校からも、数年前 に1名の女子生徒が全国大会に出場して活躍した。

もちろん、英語弁論指導には賛否両論ある。中学 生の英語力であれだけの英語スピーチを書くことが できるのだろうか、英語教師がどこまで指導すべき だろうか、中学生の英語弁論大会を実施する意義が 本当にあるのだろうか、などである。ただ、断言で きることは、英語弁論は中学生にとっては、とても レベルの高いコミュニケーション活動であるという ことである。スピーチに挑戦することにより、英語 力と表現力が確実に身につく。高い目標に向かって 生徒と教師が精一杯努力をすることにより、必ず学 校全体の英語力が向上する。本校でも数年前に、同 時に3名の生徒が各種大会で優勝。または入賞し、 その影響を受け、全校生徒の英語力が飛躍的に向上 し,英検2級,準2級,3級の合格者を多数輩出した。 この30年間、英語スピーチコンテスト開催に当 たり、支援をいただいている新居浜ライオンズクラ ブに謝意を表したい。



2. 英語キャンペーン、英語キャンプの開催

平成27年8月6日から8日までの2泊3日間. 新居浜市東平にある「銅山の里自然の家」において. 18名の日本学生協会(JNSA)基金の大学生が、ボ ランティアで東京から本市へ来てくださり、「第52 回英語キャンペーン兼第1回東平英語キャンプ | が 盛大に開催された。参加生徒50名を含め、英語科 教員、ALT などスタッフを入れると総勢 90 名を 超える参加者が一堂に会した。

このキャンペーンの目的は、中学生の英語に対す る見方や考え方を広げ、一層英語に興味をもち、楽 しく英語を学んでもらうことである。本校からも5 名の生徒が参加していた。はじめは緊張してあまり 積極的に英語を話せていなかった生徒も、最終日に は大きな声で、堂々と英語を話すことを楽しんでい た。中学生は、大学生の笑顔、礼儀正しさ、やさし さ、卓越した英語力に圧倒され、魅了された。全て の活動がすばらしかったが、私個人としては、特に 英語劇の楽しさ、奥深さを再認識させていただいた。 関係の皆様方に深く感謝したい。

今年度も8月23日、24日の2日間、「第4回 英語キャンプ」を開催予定である。参加生徒が. [Listening & Speaking 班] [Reading 班] [Writing 班」の3班に分かれて、ローテーションしながら全

ての活動を行う。キャンプのスローガンは. "Love making mistakes!"である。



3. 課外活動、修学旅行インタビュー活動など

本市では、平成28年度から市内の全11中学校 に ALT が勤務しており、それぞれの学校が創意工 夫し、ALT とさまざまな活動を実施している。

ある中学校では、昼休みに自主的に生徒が学習室 に集まり、英会話を楽しんだり、英語スピーチコン テスト出場者が練習に励んだりしている。本校で も、昼休みに毎週2回、7~8名の生徒が集まり、 ALT との日常会話を楽しんでいる。

また, 京都での修学旅行中, タクシー班別研修 の際に、京都を訪れている外国人観光客に、修学 旅行生徒がインタビュー活動をしている。事前に, ALT との TT において、インタビュー活動をする 際のマナー、適切な英語表現などについて学習を深 め、ALTと模擬練習をくり返して本番を迎える。 活動をした生徒からは、「話しかけたときはすごく 緊張したが、英語を話す楽しさを味わうことができ た」といった感想が多く出された。



4. 講師招へいによる夏季研修会

本市では、昭和60年度から30年以上にわたり、 毎年、夏季休暇や冬季休暇を利用して、著名な講師 を招へいし、英語教員向けの研修会を実施している。 これまで、故若林俊輔先生、長勝彦先生、金谷憲先 生、そして田尻悟郎先生などをお招きして研修を深 めた。

また、最近では本市と縁のある北原延晃先生を複 数回お招きし, 実践的な英語指導法「北原メソッド」 について深い学びの場をもった。本市の英語教員約 30 名だけでなく近隣の英語教員も多数参加し、総 勢60名を超える参加者が集い、教員の指導力向上、 授業力向上、さらには教員の英語力向上を目指して 研修を深めた。

5. おわりに

生徒に「確かな学力 | を身につけさせるためには、 教師に「確かな授業力と英語力」が身についていな ければならないことは自明の理である。

授業力とは、教材解釈力、生徒理解力、授業構成 力、授業実践力である。英語教員にとって、英語の 授業は最も大切な教育活動であり、生徒に確かな英 語力を身につけさせることでしか、生徒や保護者の 信頼を得ることはできない。結果が全てである。「こ の先生に教えてもらったら必ず英語力が向上する」 という評価を生徒から得られるよう、英語教員とし て、最大限の努力精進を続けなければならない。

プロの教員には、高い資質能力が備わっているこ とが不可欠である。その高い能力を獲得するために は、時間と労力をかけ、努力を絶やさないことであ る。犠牲をいとわない、代償を惜しまない。それが プロである。自己投資を怠る人は、絶対にプロには なれない。つまり、読書に励み、研修会に参加して 自己啓発に努め、さらには積極的に自分の授業を公 開し、授業改善をすることが、真の意味でプロの教 員になるための第一歩だと考える。

そのためには、自分一人だけではなかなか難しい 研修も、学校全体で、地域をあげて取り組めば継続 することができる。今後とも、「生徒の心に火を灯 せる」教員を目指し、多くの教員が意欲的、主体的 に研修に励むことを期待している。



Case 2

デジタル教科書を 効果的に活用した 「教科書を超えて いく学び」の追求 は 本下雅仁 (※質県立河瀬中学校

1. はじめに

本校では、新学習指導要領の改訂の趣旨において 示されている「何ができるようになるか」を重視 する学力観を踏まえ、「河瀬中学校版『学びの変革』 推進プロジェクト」と銘打ち、基礎・基本の徹底と、 誰にでもわかりやすいユニバーサルデザインの授業 づくりを進めている。

その具体的な体制整備の1つとして、昨年度、全 ての教室に電子黒板とプロジェクター、書画カメ ラ等の ICT 機器等の設備を整備した。それにより、 どの教科においても教材や資料、学習内容等を視覚 化・焦点化して生徒と教師が情報を共有しながら学 習を進めることができるようになった。

本稿では、中学3年生の英語科の授業を例に、 ICT 機器やデジタル教科書を効果的に活用し、 Sunshine English Course 3 の優れた題材や構成を発 展的に活用した授業実践の一端を紹介する。

2. ICT 活用による授業づくりが目指すもの

県立の併設型中高一貫教育校である本校では、6 年一貫教育の特徴を生かし、魅力ある学校づくりに 取り組んでいる。

今年度から、河瀬高等学校が、滋賀県教育委員会 が県内に5校設置した「高大接続ICT活用(「学び の変革」推進プロジェクト)」事業の研究指定校と なったことを受け、河瀬中学校も同様に独自の特色 ある取り組みを始めることになった。

英語科では、電子黒板等の ICT 機器やデジタル 教科書を活用し、英語の音やリズム、新出単語・表 現や文法事項などの基礎・基本を徹底的に習得・定 着させた後に、Show & Tell やスピーチなどの応 用的・発展的言語活動に取り組んでいる。

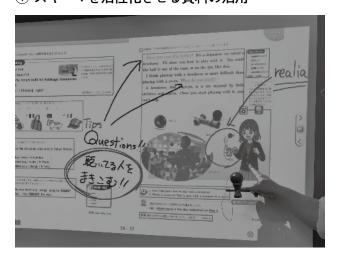
学んだ内容を深化・活用のステージへと発展させ、 骨太の英語の知識や技能、活用力を生徒に身につけ させるとともに、英語を使って「何ができるように なったか」が実感できる仕かけを授業に取り入れて

3. デジタル教科書で何ができるのか

Program 6 Let's Talk about Japanese Things. および My Project ⑧「日本文化を紹介しよう」で は、日本の文化や自分が興味をもったものについて 英語で紹介する言語活動が題材となっている。

ここでの一連の学習活動を通じて. デジタル教科 書と「紙の教科書」の両者の特徴を生かしながら、 内容を効果的に学習することから始め、実際に英語 を使用する必要性が感じられる実践的な言語活動に 取り組んだ。

① スキーマを活性化させる資料の活用



デジタル教科書では、見開き2ページを1画面に 映し出すことができる。生徒の机上にある「紙の教 科書」と同じ画面をスクリーンに投影した後、ビュー アの基本機能により、拡大・縮小、書き込み、付せ ん貼り付け、画像貼り付け、履歴保存、リンク作成 などを自由に行うことができる。

また、鳥獣戯画、ヨーヨー、けん玉など、教科書にちりばめられた参考写真やイラストなどを、瞬時に簡単な操作で、拡大提示することができ、本文の内容理解を助け、スキーマの活性化につながる支援を効果的に行える。

② 教科書の素読に基づく音読練習

マイクや由紀のスピーチは、後で自分が実際にスピーチや Show & Tell を行う上でよいモデルとなることから、暗唱できるまで十分に素読を行った。デジタル教科書では、本文の英文のスピードを変えて音声再生したり、日本語訳表示などの機能を使って視覚的支援を加えたりできるので、飽きることなくさまざまな方法で音読練習に取り組むことができる。

③ 動画の活用により言語活動を三次元化

Sunshine English Course 3のデジタル教科書には、随所に動画が映像資料として貼り付けられている。Program 6の Part 2では由紀がけん玉とヨーヨーについて Show & Tell を行うのだが、そのページには参考資料として、けん玉師の伊藤祐介氏の生き方やけん玉パフォーマンスがまとめられた動画が用意されている。生徒たちは、由紀の Show & Tell を二次元の世界のものとして学ぶ一方、伊藤氏の動画や ALT による Show & Tell を見ることにより、生徒自身が興味や愛着をもった Japanese thingsを題材に Show & Tell を行うことへスムーズに準備を進めていくことができた。

こうして言語活動の具体的なイメージがつかめた おかげで、「ALT にとっておきの Japanese items を紹介しよう」と、生徒たちは張り切って items を持ち寄り、丁寧に原稿を書き上げ、発表のための 練習に熱心に取り組み、すばらしい発表をやり遂げ ることができた。

4. デジタル教科書の活用と生徒の変化

ICT 機器やデジタル教科書を活用して指導を行う中で、生徒が個々に課題解決に取り組む場面、生徒が相互に意見や考えを交流・共有する場面、クラ

ス全体でコミュニケーション活動を楽しんだり振り 返りを行ったりする場面等が大幅に増えた。

協働学習やアクティブ・ラーニングを通して,友だちと学び合い,喜びや驚きを共有し合う機会を多くもったことから,大きな声で自信をもって英語を発話できる生徒が増え,互いの意見や考え,発表を素直に受け止め,評価できる受容的・共感的態度や姿勢が生まれてきた感がある。

英語のコミュニケーション活動を通じて生徒どうしが「つながり」を大切にし、共に学び合える学習者集団として自律的に成長してきたことは、ICT機器やデジタル教科書を効果的に活用して授業改善に取り組んできた所産の1つである。

5. おわりに

デジタル教科書は、「紙の教科書」の全ページが 掲載されており、さらに、ネイティブ音声や映像資 料がふんだんに収録された次世代型の教材である。 しかし、それは、万能の魔法の道具ではなく、「紙 の教科書」を超えるものでも劣るものでもない。デ ジタル教科書は、「紙の教科書」を活用するための 指導技術やアイディア・創意工夫があってこそ、効果 的に活用できるものであることは言うまでもない。

本校では、ICT活用を、個々の生徒の「基礎学力の定着」や「英語のコミュニケーション能力に係る4技能の向上」に有機的かつ効果的につなげることで、「教科書の復権」ともいうべきデジタル教科書の効果的な活用に軸足を置いた授業改善にたどり着いた。

これからも、Sunshine English Course のデジタル 教科書の活用を通じて、「教科書を超えていく学び」 を追求していきたい。

●参考文献

木下雅仁(2003)「Task-based Syllabus の開発と総合的英語運用能力の育成一導入期の指導に焦点をあてて一」「STEP BULLETIN」Vol.15 財団法人日本英語検定協会。

木下雅仁(2012)「スローラーナー支援の視点に立った授業改善と教材の工夫: ライティング指導を通した授業実践」『英語教育』 Vol.61 No.4 (7月号) pp.24-26. 大修館書店.



生徒の笑顔と懂く瞳!~効果的でコミュニカティブな「発表」の活動~

久保田 純一 (群馬県伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校教諭)

1.「グルグルスピーチ」 "Rotating Speech"

これは、4人グループで 行うスピーチや Show and Tellの「発表」の場面を想 定した活動である。それぞ れが以下の役割を順番に担 当していく。



- (1)発表 (Present): 聞き手が理解できているか 確認しながら発表する
- (2)報告 (Report): 発表者が話す内容をよく聞い て第三者に報告する
- (3)確認 (Confirm): 聞き手のリアクションを見 ながら確認する
- (4)質問 [補助] (Question [Help]): 発表された 内容について質問する

これらの体験を通し、コミュニカティブにスピー チを行う態度や技能を高めることを目的としてい る。ここでは,

●全ての生徒が何らかの役割を 担い、誰かが手を抜いたら活 動が成立しないため、責任感 をもって取り組める。



- 2 みんなが頑張るので、結果とし て互いを信頼し合うことにつながり、ラポールが高まる。
- ❸全ての役割を全員が一度は経験するので、大変さや緊張感を 共感的に理解でき、互いに協力し合う雰囲気も醸成される。

といった効果がある。応援の声をかけたり、ヒント を出したりと、生徒が目をキラキラさせ、ニコニコ しながら取り組む「発表」の活動である。

2. 活動手順

① 右上図のように板書し、生徒の動きを確認する。



各班には4人の生徒(A~D)がいる。

- ② 各班の B が矢印方向の班にそれぞれ移動した後. A が発表する。(D は原稿を預かり補助)
- ③ BはAのスピーチを聞いた後、自分の班に戻っ て報告する。
- ④ 次に C が矢印方向の班にそれぞれ移動し、A に 内容を確認する。
- ⑤ D は A に発表内容に関連した質問をする。 以上を1ラウンドとし、下図のローテーション で行うことで移動の時間短縮になる。

Round	1	2	3	4
Present	Α	В	С	D
Report	В	С	D	Α
Confirm	С	D	Α	В
Question	D	Α	В	С

指示の例 Present: You will talk about your topic.

Report: You will listen carefully to the presenter and remember the information. Then you will go back to your group to report and tell the information again.

Confirm: You will listen to the report and remember the information. Next, you will go to the other group and confirm the information. "You talk about... and you said Right?"

Question: You will ask the presenter some questions to get more information.

3. 追記

各活動の時間設定、補助の有無、聞き手のメモの 可否、報告以降の使用言語については生徒の実態に 応じて変更している。

「発表」の活動にコミュニカティブなエッセンス を加えることで、多くの聴衆の前で行う際も、聞き 手との間にコミュニケーションが成立するように なっていくことを目指したい。



系統的に語彙を指導する工夫

上尾 栄美子 (東京都足立区立第五中学校主任教諭)

1. はじめに

言語学習において、語彙の習得は重要な課題の1つである。生徒が語彙をくり返し使うことでその定着を図れるよう、3年間を見通した系統的な指導を計画している。その一例を紹介したい。

2. 感情を表す語彙の指導

(1)使用場面

感情を表す語彙について、以下の文法指導場面で 重点的に使用させることができる。

1年 I'm happy.

【be 動詞+形容詞】

2年 She looks happy.

【look +形容詞】

2 4 She looks happy.

Tiony | Noul

2年 I feel happy when I listen to music.

【接続詞 when】

3年 Listening to music makes me happy.

【使役動詞 make】

感情を表す語彙の導 入には、いつも右のよ うな自作の絵を使用し ている。生徒からは、 絵と語彙が結びついて 記憶しやすいと言われ



ている。扱う語彙は, happy, sad, sleepy, angry, sick, hungry, thirsty, nervous, tired, excited, relaxed, surprised, bored, scared などである。

(2)活動の実践例

①接続詞 when の導入における活動

- ・絵を示し、感情を表す語彙を生徒から引き出す。
- ・生徒と以下のようなインタラクションを行う。
 - ()内は生徒の反応である。

[ホラー映画のパンフレットを見せて]

Look at this! This is my favorite movie. I love watching

horror movies. Do you like horror movies? (No....) No? Why not? (Scared....) Oh, you feel scared when you see horror movies. When I see horror movies, I feel excited! So I like horror movies. How about you? How do you feel when you see horror movies? (I feel sick when I see horror movies.) Oh, I see.

- ・口頭練習後、生徒はワークシートを使ってペアワークをする。ワークシートには、"take a bath", "go to the dentist" などの条件を載せた。
- ・ペアワーク後、生徒は「言えたこと」を書く。

② 使役動詞 make の導入における活動

- ・①と同様インタラクションを行い、以下のような、 対話を黒板に示していく。
- A: Do you like \sim ?
- B: Yes, I do. / No, I don't.
- A: Why? / Why not?
- B: Because it makes [they make] me \sim .
- ・口頭練習後,生徒はワークシートを使って自由に 歩き回り,友だちに質問していく。ワークシート には, "studying math", "listening to music", "roller coasters" などの質問項目を載せた。
- ・「話す活動」の後は、「書く活動」に取り組ませる。 その際、「好きなこと」「好きでないこと」について、 理由をつけて述べる1文として書かせる。以下に 例をあげる。

I like listening to music because it makes me relaxed.

I don't like roller coasters because they make me scared.

3. おわりに

以上は一例であるが、今後も、生徒に既習語を定着させるための活動を計画的に授業に取り入れていきたい。また、こうした活動が興味をもって取り組め、印象に残るものになるように工夫していきたい。

この場面, どう対応する?



小中の違いと, 学びの視点

正頭 英和 (立命館小学校教諭)

A くんがあなたに向かってこう言います。「先生こっち来て! おもしろいものがあるんだ!」そちらに行こうとすると、あなたの服を引っ張りながら B さんがこう言います。「先生こっち来て! きれいな虹がかかってるよ!」あなたは迷います。両方のお願いを同時に聞くことはできません。さて、読者の皆さんならどう対応されますか? ぜひ、次の文章を読まれる前にお考えください。

中学校の先生方ならきっと、「A くんのお願いが先だったから、B さんごめんね。後で行くよ」と伝えるのではないでしょうか。もちろん間違いではありません。王道の答え方と言えるかもしれません。ただ、小学校の先生方は同じようにはされません。「B さん、A くんがあっちでおもしろいものを見つけたみたいだよ。一緒に行こう!」と言われると思います。B さんを巻き込んで A くんのところに行く、といったところでしょうか。

このお話は小・中連携の盲点をついたものだと思います。連携というとカリキュラムや教材などを連想しがちですが、実はこのような「対応の差」こそが一番の課題なのだと感じています。中学校の先生方がこれから意識しなければならないのは、小学校の先生方がどのように子どもたちを動かしているのかを知ることです。子どもの動かし方に関しては、小学校の先生方は本当に卓越しておられます。中学校の先生方が小学校に出張授業に行くというケースも増えてきていますが、ぜひ小学校の先生方の国語や算数、体育などの授業を参観していただきたいと思います。小・中連携で大事なのは、小学校の先生方が「英語の指導方法のノウハウ」を中学校の先生方から学び、中学校の先生方が「子どもを動かす指導技術」を小学校の先生方から学ぶことです。そのようなWin-Win の視点、学び合いの姿勢をもつことが小・中連携においては大事なのです。

「コミュニケーション・ワークシート」

「コミュニケーション・ワークシート」で生徒どうしをつなぐ



金澤 朋宏 (北海道小樽市立松ヶ枝中学校教諭)

新出文法導入時の「話す」活動の1つとしてこのワークシートを活用している。対話を通して、新しい表現を自分の言葉として使えるようにすることが目的である。

進め方としては.

- ①ワークシートの絵や図のところだけを切り取ったプリントを配付する。
- ②ワークシートの例文を板書し、パターン練習を行う。
- ③ペア活動の形を作る。
- ④板書した例文を徐々に消しながら、ペアをどんどん変えていき、徐々に自然な対話ができるようにしていく。
- ⑤最終的には板書を全て消し、表現を加えながら自然な対話ができることを目指す。例文 が長い場合は穴埋め式で行う。

パターン練習という型からの始まりではあるが、互いに英語だけで伝え合っているという自信が育まれることを意図しての活動である。

配慮する点として、対話の「場面や状況・人間関係」の設定を具体的にしている。それによって自分や他者への気づきが生まれ、「この時はどう言えばいいんだろう?」、「〇〇は何と言うのか?」など、生徒自身の中から疑問が出てくる。それらを自分のノートに蓄

Who	t will you do this weekend if it's sunny?
	Chel Mr. Name
LESSENCET BOX	の発表の予定を責せましょう。
(RE-17) it's easily the	cannings, ET play assects
BLD I'd a may tree	**************************************
It'l It impossibly the	seatons fol
131-19 (10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	makenet I'll
(4) If it among the	merical, 21
L-OKNOT MEN	らって会補い事しょう。
(W) A What will you at 1 PS play second	
170481	N.
and published	Undi
No.	
a Promierrale e d	OPERSTANCE OF THE STATE OF THE
ONLY Manual grides	this assistant if it's some

えていき、表現を増やしていく。このワーク シートはさまざまな題材に触れられており、 絵や図も親しみやすく、生徒はいつも興味を もって取り組んでいる。

単元によっては、友だちと話したことを他者に紹介するという設定で「書く」活動も盛り込まれており、対話後にその友だちのことを考えながら英作文することもできる。これもまた生徒どうしをつなぐ教材として、とても有効だと考える。

英語でのコミュニケーション活動を通して生徒どうしをつなげたい。その手段として 今後もこのワークシートを有効に活用していきたいと考えている。

◀ 「コミュニケーション・ワークシート」2年 p.26

ジグソーパズルと英語学習

高梨 芳郎 (名古屋外国語大学教授)

英語の授業でコミュニケーション活動やタスクが 行われるようになってから年久しい。30数年前に 英国の大学で研修を受けた際、それらの活動に受講 生として当惑しつつも、斬新な思いで取り組んだこ とが今も懐かしい。

そのひとつに Jigsaw Reading がある。このタスクは、文章を段落などで切り分けてグループの一人ずつに与え、各自の内容について発表させた後、グループ全体で原文に復元させる活動である。短い英文から長い文章まで扱うことが可能で、談話の流れに着目して英文の概要把握を行わせるのに適している。英語で発表し、英語でやり取りを行えば、聞くこと・話すことも加わり、統合的なタスクになる。長い英文や難度の高い英文の場合は、同じ英文をグループ全体で読んで、共通理解をさせた後、各グループから一人ずつ集まる新たなグループで、文章全体を理解させ、復元させてもよい。これをリスニングで行えば Jigsaw Listening になる。

中学生から大学生まで実施可能で、論文ならば大学院生にも実施できる。カードや用紙に英文を貼り付けるだけで作成は容易である。ただし、指導目的に合う適切な英文を選ぶことが肝要である。興味深いものならば、Sandra Heyer, True Stories in the News: A Beginning Reader (Longman) などもある。英国の大学でのタスクでは、タスクの内容と連続性をもたせ、終了後にウィンザーへの小旅行が実施されたが、このような粋な計らいは見たことがない。

英国での研修から数年後、開隆堂で中学校と高校の教科書編集に携わらせていただくことになった。その数年後、英国で研究の機会を再び得て、ロンドンを訪れた際、偶然にも、高校教科書 Sunshine Readings で担当した課の「場面」に出会った。大英博物館の近くにある Great Ormond Street である。E.V. Lucas の The Face on the Wall に登場する通りである。

20世紀の初めのこと。この通りの貸間で不思議な体験をした男がいた。部屋の壁に染みがあり、日を追うごとに顔に見えてくる。男はその顔の人物を懸命に捜し出す。その人物は、Mr. Ormond Wallという大富豪で、その後、大富豪は事故に遭い、重傷を負う。ある日、男が部屋の壁を見ていると壁の顔が眼前で消えていく。その時、あの大富豪が亡くなったとか。

これは、当時のロンドンのお話クラブで披露された男の体験談である。男によれば、不思議なことが3つあるという。壁の染みが顔に見えて、通りと同じ名前の人が実在したこと。その人が亡くなると同時に壁の顔が消えたこと。これで2つ。では、3つ目は何か。

授業で、この英文の Jigsaw Reading を行う。 英文はグループで何とか復元できても、3つ目の内 容を表す英文は考えさせるため空所にしているので 難しい。授業の終わりが近づく。私はその男と同じ 内容のことを言って、教室を後にする。「30分前 に作った話です。Jigsaw Reading に加え、「クロー ズ・テスト」(空所補充)は「苦労」の「複数形」 かもしれない。だが、「このタスクが一番おもしろ かった」というお世辞を聞いたこともある。地名の 多い英文なので、地図を資料に加えてもよい。重要 語をマップで与えたこともある。

英語学習は案外ジグソーパズルなのかもしれない。

夏休みや冬・春休みの副読本として最適です!

リーディング**教材 A1[2]**… 定価 本体580~600円+税 各巻A5判/40~48頁 B1…… 定価 本体600円+税 CD1枚付き

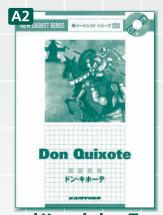


- ●世界の名作を、いずれも中学校段階から 読めるように、やさしい英語で書き直し てあります。
- ●CDには本文すべてを収録してあります ので、目と耳で楽しみながら学習できる リーディング教材です。

※ 読む時期の目安

A1[2](中学2年前[後]期~)/B1(中学3年前期~)

アリババと 40 人の盗賊*



ドン・キホーテ



神秘の島*



悪魔の小びん



耳なし芳一・雪女



ロミオとジュリエット*



オー・ヘンリー短編集*

★はワークシート付きです。



発行物のご案内はホームページでご覧いただけます。 http://www.kairyudo.co.jp/

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 TEL 03-5684-6118 FAX 03-5684-6155

教育現場と授業名人のコラボで生まれたワークブック



C vs SVO

2層式学習で語順のつまずきを解消!

A4判/144ページ ■定価 本体700円+税

監修・編著

中嶋洋一(関西外国語大学教授)

分担執筆

英語をオモロう教え隊

先生, 何で "He is like sports." がダメなの?

生徒の疑問に答える待望の英語教材、ついに登場!

- SVCとSVOのちがいを画期的な2層式で学習できます。 生徒の語順のつまずきはこれで解消!
- 「語順」と「チャンク」を系統的に学習できます。



頭と心が動く英語授業を小・中・高すべての先生方の



「プロ教師」に学ぶ アクティブ・ラー

"脳働"的な**英語学習**のすすめ

A5判/288ページ■定価 本体2,700円+税

編著

洋— (関西外国語大学教授)

直山木綿子 (文部科学省教科調査官)

久保野雅史 (神奈川大学教授)

対応

登場するのは"脳働"的な授業作りの「プロ」ばかり。知りたかった秘訣が学べる名著。 12人の実践家の芸術的な授業に「科学的考察と分析」を加えたアクティブ・ラーニングの指南書。

英語教育

|非売品 (通巻548号)

平成30年8月28日印刷 平成30年8月31日発行 編集兼発行人 大熊 隆晴 印刷所 株式会社平河工業社 〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-9 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎(03)5684-6121(営業),5684-6118(販売),5684-6115(編集) http://www.kairyudo.co.jp/



Vol.70-1

札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台18ビル4階 名古屋市千種区星が丘元町14-4 星ケ丘ブラサビル6階 大 阪 市 西 区 新 町 2 - 10 - 16 福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階

☎011 (231) 0403 ☎022 (742) 1213 ☎052 (789) 1741 ☎06 (6531) 5782